<飲酒運転の撲滅について>

【調査の目的】
　福岡県では、深刻な状況にある飲酒運転の撲滅を推進し、飲酒運転のない、県民が安心して暮らせる社会を実現するために、全国初の罰則付きの「飲酒運転撲滅運動の推進に関する条例」（以下、「飲酒運転撲滅条例」という。）が平成24年9月に全面施行され、その後、状況に応じて改正がなされています。
　県では、本条例に基づき、飲酒運転撲滅に係る様々な取組を実施しているところですが、今後の効果的な取組を推進する上での参考とするため、条例の周知状況等について、県民の皆様の御意見をお聴かせいただくものです。

【活用状況】
・飲酒運転撲滅条例の内容を始め、県で行っている飲酒運転撲滅対策に係る事業を広く県民に周知するための参考資料として活用
・来年度以降の飲酒運転撲滅キャンペーンの効果的な実施に向けた検討資料として活用
・効果的な広報啓発を行うための参考資料として活用

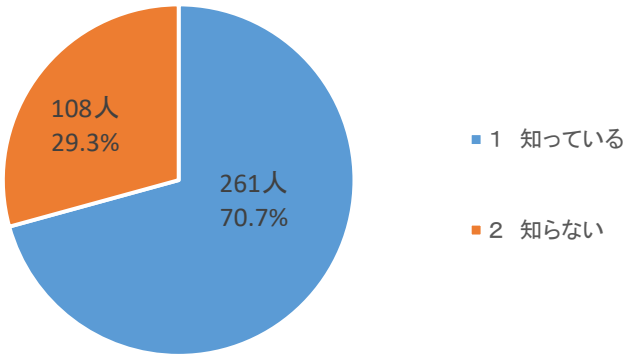
（人づくり・県民生活部生活安全課）

問1　福岡県では、飲酒運転撲滅対策の強化と県民の意識改革を推進するため、飲酒運転撲滅スローガン（「飲酒運転は絶対しない、させない、許さない、そして見逃さない」）のもと、飲酒運転を見かけたときの110番通報の義務などを飲酒運転撲滅条例に規定しています。
　あなたは、県民に、飲酒運転を見かけたときの110番通報の義務があることを知っていますか。
　次の中から当てはまるものを【1つだけ】選んでください。

※詳細については、県ホームページを御参照ください。
https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/inshujoureikaisei2020.html

（n=369　選択は1つのみ）

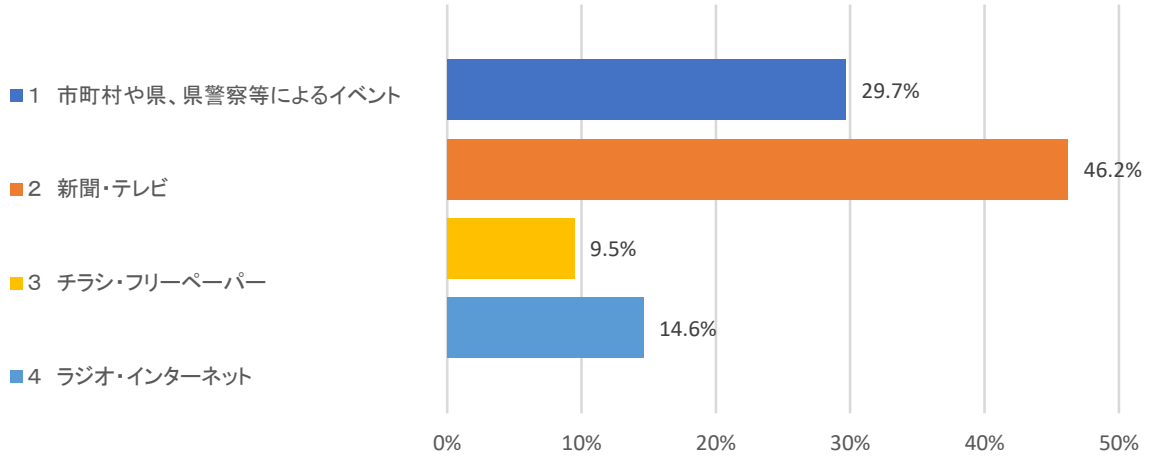
1　知っている	70.7%	（261人）
2　知らない	29.3%	（108人）



問1―2 （問1で「1」を選択された方にお尋ねします。）
あなたが、飲酒運転を見かけたときの110番通報の義務があることを知ったきっかけは何ですか。
次の中から当てはまるものを【すべて】選んでください。

（n=411　複数選択可）

1　市町村や県、県警察等によるイベント	29.7%	（122人）
2　新聞・テレビ	46.2%	（190人）
3　チラシ・フリーペーパー	9.5%	（39人）
4　ラジオ・インターネット	14.6%	（60人）

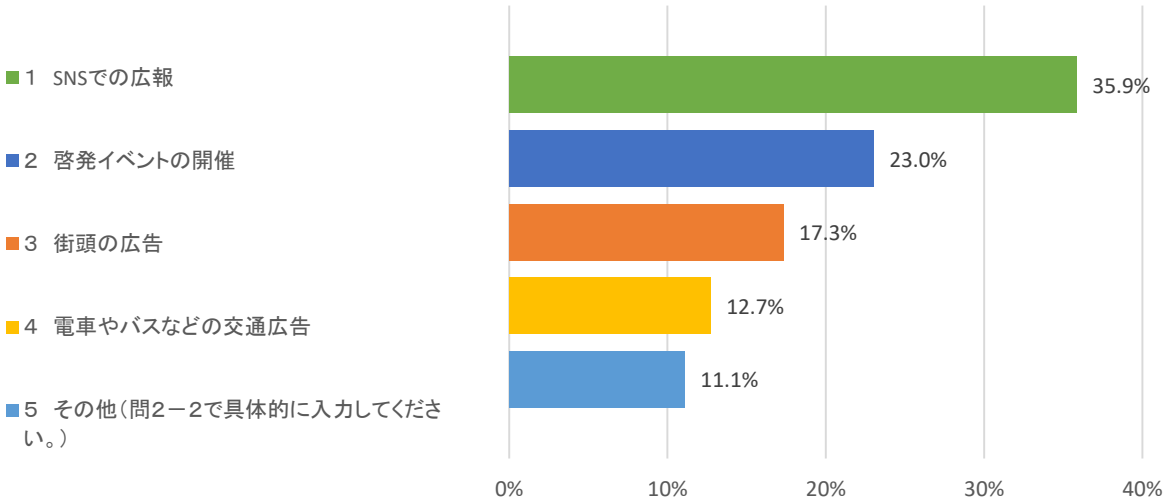


問2　福岡県では飲酒運転撲滅を図るため様々な取組を行っております。
あなたは飲酒運転の撲滅を図るために、どのような広報・啓発が効果的だと思いますか。
次の中から最も当てはまるものを【1つだけ】選んでください。

※詳細については、県ホームページを御参照ください。
https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/insyuuntenbokumetu-torikumi.html

（n＝369人、選択は1つのみ）

1　SNSでの広報	35.9%	（132人）
2　啓発イベントの開催	23.0%	（85人）
3　街頭の広告	17.3%	（64人）
4　電車やバスなどの交通広告	12.7%	（47人）
5　その他（問2－2で具体的に入力してください。）	11.1%	（41人）



問2—2　問2で「5」を選んだ場合は、その内容を具体的に入力してください。

（ n=41 ）

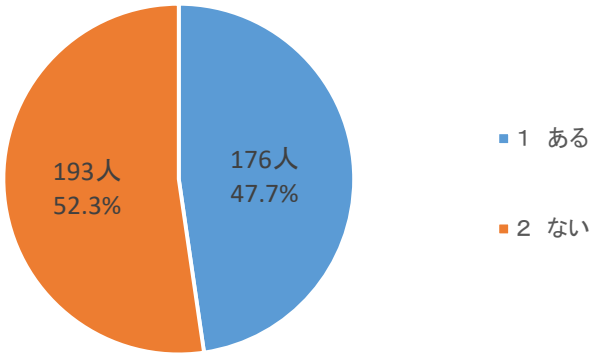
約17・8年前の福岡での大事故を教訓に県が特別期間を設け、その間車で飲食店に来た人にはノンアルやジュース類の割引券やタクシー割引券を渡すなど行政と民間一帯のイベントをやってみてはどうですか。
頻繁な取り締まりとお酒を購入する際のマイナンバーカードの提示など
飲食店での注意喚起と、代行運転の利用促進
お酒を出すお店に、啓発ポスターを目立つように貼る。 貼るポスターの内容は、恐怖を覚えるぐらいインパクトのある内容にする。
飲酒運転の悲惨な現実を伝える「感情に訴えかける」広報 「飲酒運転は犯罪です」というメッセージの定着
厳罰化を図り、そのことを告知する
免許更新の際に講習で流れる映像がとても印象深く忘れられません。冊子の中の飲酒運転を犯した方の手記も大変記憶に残っていて、自分も気をつけなければ、と思う事が出来ます。しかし、怖い映像をストレスと感じる方もいるので、難しいですね。
NHK福岡の地域ニュースや、FBS福岡くん。TNCや、九州朝日放送などの情報番組、夕方ニュース時間帯に、毎回流して欲しい
「車載カメラ録画中」や「赤ちゃんが乗っています」といった既存のマグネットに「飲酒運転撲滅」のメッセージを加えた啓発ステッカーを作成し、下記の場所で配布することを提案します。 配布場所 運転免許更新時（試験場・警察署） 母子手帳交付時（市町村窓口） 保育園・幼稚園・学校の通安全教室 日常的に目に触れる場所に貼ることで、飲酒運転への意識を高め、煽り運転の防止など副次的な効果も期待できます。
飲酒運転にて加害者被害者となってしまった方々両者による、事故後の生活等に関する事を訴えるセミナーを頻繁にTV番組にて伝える。
デジタルサイネージで動画を繰り返し繰り返し流す。 （注意啓発ではなく実際にぶつかった動画などリアルな動画）
アルコールを提供する飲食店での掲示がいちばん効果があると思います。みんな飲酒運転がいけないことが普段はわかっていても、いざ飲酒したあとは、これくらいなら大丈夫、という気持ちになるものなので、そこでちゃんと「普段わかっていること」を思い出させることが大切かと思います。
そもそもSNSや街頭の広告、交通広告を見る人は飲酒運転しないと思います(良識があるので) なので税金をかける形になりますが、例えばYoutube広告で出したり、福岡県民全員に届ける「チラシ」という形が一番効果があると思います。
飲食店でのポスター掲示
短期的には、週末夜や繁華街周辺でのランダム検問強化や、無料タクシー・代行クーポン配布、違反者の公表が有効だと思います。さらに、事故被害者や加害者の体験映像をSNSやテレビで広く伝え、飲み会主催者に安全な帰宅確認を義務付けると良いと思います。加えて、居酒屋やバーでの飲酒時免許証預かり制度を導入すれば、運転を防ぐ効果が高まると感じます。
テレビの酒類CMのテロップで流すだけでなく音声でも流す。 そもそも子どもたちも視聴する時間にビールなどの広告が多すぎるから、幼い頃から好奇心を刷り込まれ飲酒に対して抵抗感が薄れている。日本の慣習からも飲酒へのハードルを低くしている。
免許取得時（新規・更新）での意識向上を図る取組み
酒販売店、飲食店、居酒屋での徹底的な啓発、ポスター活用。
1～4の広報に加え、自治会や付随するイベント、学校や企業と協力をして個別に啓発活動を直接行う事で条例の浸透と飲酒運転禁止の意識を高めることができる。 草の根運動になるが、その運動の継続や運動量が飲酒運転の減少と撲滅に繋がると考える。

飲食店、販売店での啓発ポスターの設置義務。複数の設置サイズのデザインや種類によって大きさを決め、設置数、サイズによって啓発に参加した企業には、特定のポイント付与や、何かしらの特典を与える。
大企業、中小、自営限らず、福岡県内にある全ての会社に、飲酒運転撲滅の啓発ポスターを貼ってもらう。
警察官による取り締まり強化
実際の取り締まりの強化
お酒を提供する飲食店を重点的に広告や店内の掲示物などで知らせる。
広報や啓発はすべて行えばよいと思います。 世代によってまったく違うので。 どれが効果的かはわからない
酒を販売している場でのポスター掲示
飲食店経営者と従業員に関する研修 高校生に対する社会科、家庭科での授業での学習
各個人へ送られる公、官の郵便物を利用する。 飲酒撲滅メッセージ付きの封筒や葉書を作成する。
乗用車を使いそうな場所での広告掲載(飲食店、コインパーキングなど)
対象となる成人だけでなく、学習段階(義務教育)飲酒運転をしてはいけない(したらどうなるかを加害者・被害者両サイド)ことを学ぶ機会を作っていくことが必要だと思います。飲酒運転は人を殺してしまう可能性があるということが当たり前である意識を醸成するが必要であると思います。 具体的には、小学校から道徳の授業の中で学ぶ等
テレビなど偏らない多くの人が見るCMや番組がいいと思う
道路の電光掲示板
テレビによる広報活動が効果的かつ身近に伝わり易いと考えます。
公共施設や公衆トイレの便器に立つ、座ったときの目の前に見えるようにポスターを掲示する。問いかけるように。
格安自動運転タクシーの実用化。
海外の様なインパクトのある内容の広告をテレビCMやSNS等の媒体で流せば、危機意識が浸透すると思うから。
学校、企業での講演会
処罰の厳正化と、その事例の報道。「そんな事をすると、こうなります」という具体的な中身を伝える。
多角的・継続的なアプローチをすべきです。 過去の重大事故の実映像や再現ドラマを用いたショック効果のある映像を制作し、SNSや公共施設で上映。 企業など朝礼・安全会議で定期的に事故事例と処罰内容を共有。 学校で子ども向け飲酒運転防止授業を行う。家庭に啓発資料を持ち帰らせることで親世代へ波及。
テレビCM
居酒屋など飲食店への教育

問3　あなたは、配架してあるチラシやフリーペーパーなどを手に取ったことがありますか。
次の中から当てはまるものを【1つだけ】選んでください。

（n=369　選択は1つのみ）

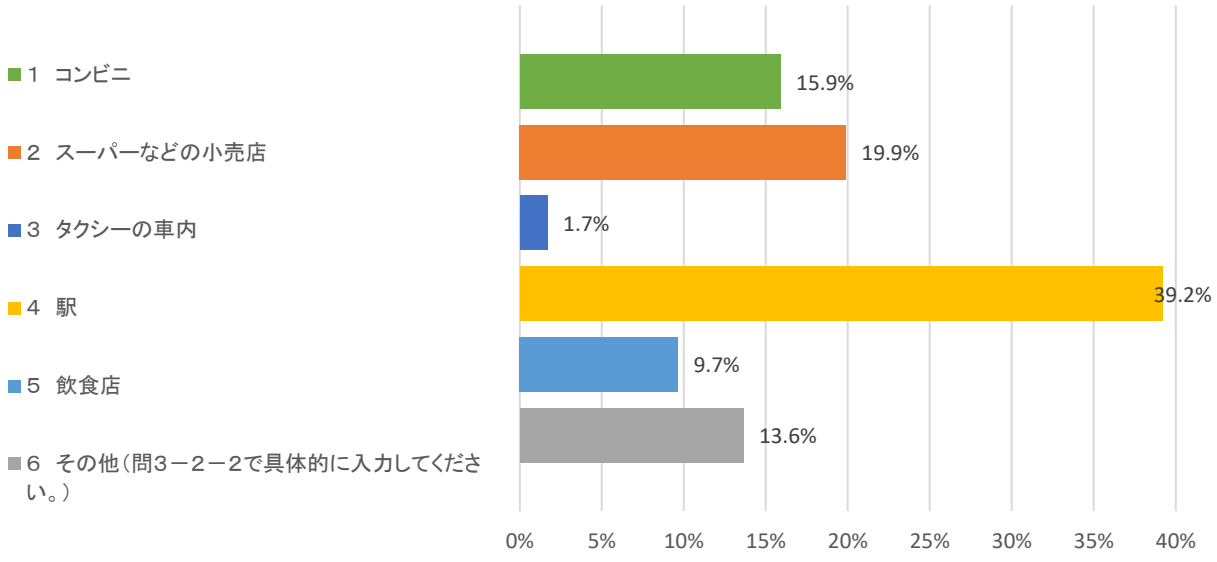
1　ある	47.7%	（176人）
2　ない	52.3%	（193人）



問3—2　（問3で「1」を選択された方にお尋ねします。）
どこで手に取る機会が多いですか。
次の中から当てはまるものを【1つだけ】選んでください。

（n＝176人、選択は1つのみ）

1　コンビニ	15.9%	（28人）
2　スーパーなどの小売店	19.9%	（35人）
3　タクシーの車内	1.7%	（3人）
4　駅	39.2%	（69人）
5　飲食店	9.7%	（17人）
6　その他（問3－2－2で具体的に入力してください。）	13.6%	（24人）



問3—2—2　問3—2で「6」を選んだ場合は、その内容を具体的に入力してください。

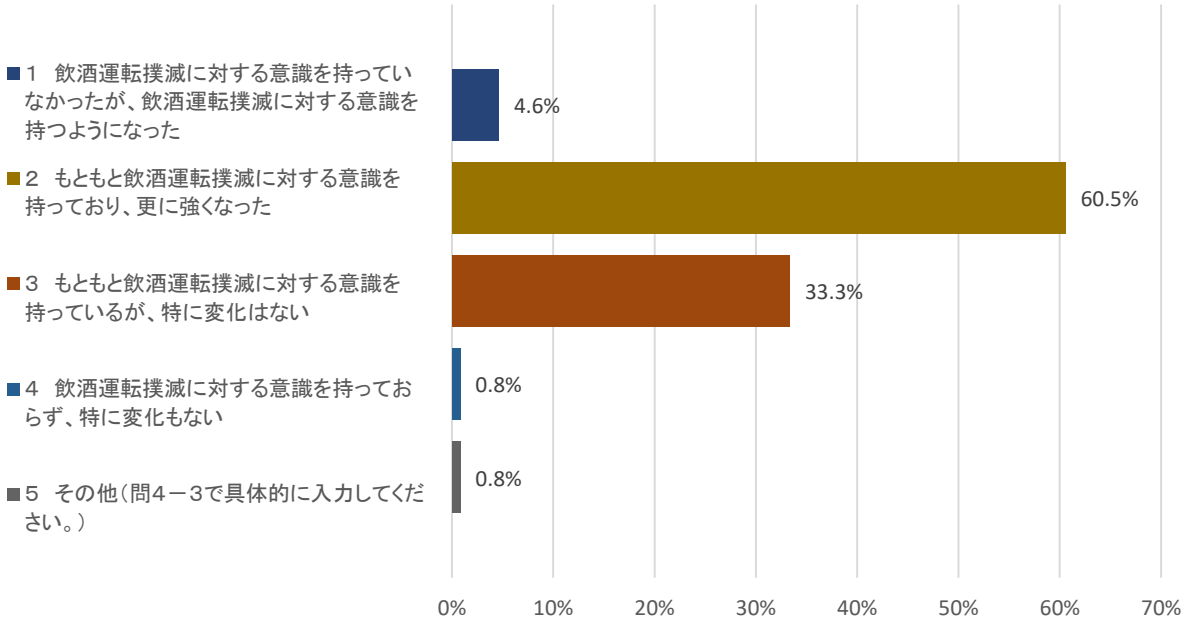
（　n=24　）

（子供の習い事会場の）市役所や市民センターなど
市役所、図書館
役所
学校,パンフレット置き場
市民センターからの回覧などで見たと思います。
市役所
役所やその出張所に置いてあるチラシ
中央区役所を訪ねる機会が多く、その際チラシ・ポスターを目にします。
児童館や図書館など公共の施設など
・区役所 ・講演を聞いたことがあるから
幼稚園
図書館や市役所など公共施設。吟味された情報という安心感があるから。
ウォッシュハウス
町の施設や図書館
郵便受け
公共施設
イオンやゆめタウンなど大型ショッピングセンターなど
公共施設
図書館などの公共施設
公共施設（アクロスなど） 色々な情報が一カ所で入手できるためよく利用する
市役所や図書館などの公共施設
役所や図書館など公共施設の情報コーナー
筑後市立図書館
啓発活動の一環として、配られてるのを受け取った。

問4　近年における飲酒運転撲滅運動等をきっかけとして、御自身や周囲の方々の飲酒運転撲滅に対する意識に何らかの変化がありましたか。
　　次の中から当てはまるものを【1つだけ】選んでください。

（n＝369人、選択は1つのみ）

1　飲酒運転撲滅に対する意識を持っていなかったが、飲酒運転撲滅に対する意識を持つようになった	4.6%	（17人）
2　もともと飲酒運転撲滅に対する意識を持っており、更に強くなった	60.5%	（223人）
3　もともと飲酒運転撲滅に対する意識を持っているが、特に変化はない	33.3%	（123人）
4　飲酒運転撲滅に対する意識を持っておらず、特に変化もない	0.8%	（3人）
5　その他（問4－3で具体的に入力してください。）	0.8%	（3人）



問4－2　（問4で「1」を選択された方にお尋ねします。）
　飲酒運転撲滅に対する意識にどのような変化があったかを差し支えない範囲で具体的に入力してください。

（　n=12　）

自分自身が飲酒運転をしないのを当たり前と思って過ごしてましたが、他の人・身近な人にも飲酒運転をしない・させないと思うようになったことです。
飲食店で啓発を受けることが増えた。
最近、ニュースで、飲酒運転で逮捕がでて、初めて意識が、上がった。
厳しい罰則、また周囲の飲酒運転に対する意識
30年くらい前までは飲酒運転当たり前という周囲の状況だったが、今では考えられない。
周りに飲酒運転をしている人を見たことがあったが、注意しなければならないと思うようになった
飲酒して運転するドライバーはもちろんの事、同乗者も責任があり罪になる。
飲酒運転はみんなで防止することが重要と考えた
志賀島の事件以来、飲酒運転の恐ろしさを知ったので、絶対に飲酒運転はしないようにしています。
一昔前は、短時間寝たら運転してもいいという認識の人がおおかったが、現代はそれがなくなった。
両親は以前、飲酒量が少なければ運転をすることもあったが、近年は私たち兄弟から指摘したり厳罰化が進んだりしたこともあって、少しでも飲酒したら運転しないという意識を持ってくれるようになった。
アルコールの分解時間を考えて、飲酒量を調整するようになった。

問4－3　問4で「5」を選んだ場合は、その内容を具体的に入力してください。

（　n=3　）

自分自身及び周囲が自動車の運転をしないため、意識の変化はない。
お酒飲まないから個人的には何も変わらない。 周囲はお酒を飲んだ時は代行を使うようになった。
免許証更新で、動画を見て心に刻みました。

問5　飲酒運転の撲滅について、これまでの設問以外に意見（飲酒運転の撲滅のために必要だと思われること等）はありますか。
　　ある場合は、その内容を具体的に入力してください。

（　n=244　）

飲酒運転によって亡くなった人の遺族のコメントを、もっと広報すべきと思います。
家族の抑止 飲食店の監視
飲酒運転した結果の、加害者のその後の人生をSNSやテレビ番組、新聞などあらゆるメディアで伝えることが足りてないのではないか。社会的にどうなったか、金銭的にどうなったか、など。一度の飲酒運転でどれだけ人生を棒に振ることになるか想像できないので、やってしまうのではないか。 被害者家族の切実な訴えはよく見るが、加害者がその後どうなったかは、知らない人が多いと思う。
私自身はバスなどの公共交通機関をよく利用するので、掲出自体はよく目にしますし、そういった県民の意識向上につながるとはおもいます。が、飲酒運転をされる方たちは、おそらく自家用車を利用されておりあまりそういった街頭や公共交通機関のポスターをみる機会がそもそもないのではないかと思います。免許更新のタイミングだけでは不十分かと思いますので、職場での指導や、スーパーや飲食店、車を扱うお店など、運転される方が目にする場所へ掲出をすすめるなど、効果的にしていく必要があるかと思います。
飲酒運転になるかどうか判断できるキットの配布
小中高でもダメということを学んだ記憶があると思いますが、 大学等の高等教育、社会人となると情報として流れてくる機会はあっても、 知ろうとする機会が無くなっているように思います。 私が勤める会社では、飲酒運転撲滅宣言を行っていますので、会社でも取り組みとして 交通安全運動は実施していますが、 やはり学校、企業体それぞれで担当者や安全運転管理者が日ごろから啓発活動を行い、 身近な存在として指導していく必要があると思われる。
あってはいけないので、周囲がしっかり家族や仲間を守る意味で、飲酒の場を冷静に見ること、自覚の無い人には関わらず、れっきとした態度を示す事、人間の安全と幸せは何か考える事と思います。
飲酒運転における被害者と加害者のその後の状態や生活等を、実際の映像やドラマを作戦しテレビやSNSで訴えかける。
罰則を厳しくする
飲酒運転を無くす為に、本人だけでなく、同乗者や周りの人達の協力も大事だと思った。
特にない。今のままで十分だと思う。
更なる厳罰主義の強化！
飲酒運転での言い訳として「既にアルコールが抜けてると思ってた」ということをよく耳にします。やはりアルコールをチェックするもっと簡単で安価なリトマス紙のようなものが欲しいですね。
飲酒運転をする人は、公共交通機関の利用をほぼしないと思います。日中はコンビニやスーパーの駐車場、夜間は飲み屋近辺に飲酒運転を見つけた場合110番ではなく動画を送るや最寄りの警察のSNSに送り検挙につながればポイントが入るなどし関心を高めてほしいです
繁華街の駐車場でのアルコール検査など実施しても良いのではないでしょうか？

50代男性へ重点的な啓発が必要だと考えます。特に「少しなら大丈夫」という過信や、長年の習慣からくる慢心が背景にある場合も多い層かと思います。交通安全やアルコールに関するリテラシー向上、モラル意識の醸成が重要と考えます。また、アルコール依存症が関与しているケースもあり、予防や相談体制の充実といったケアも不可欠だと思います。また、運転業務のある企業では普段からアルコール依存になっていないかなどの運転時以外の広い調査をすることの必要性を広めていくのもいいかと思います。加えて、アルコールチェッカーを一般の人々が入手しやすい価格・流通に整備することや、運送業界などでの導入促進、さらには飲食店街などに誰でも利用できるアルコールチェックスポットを設けるなど、チェック環境を社会全体に広げていく取り組みも効果的ではないでしょうか。
ここ数年、あれだけメディアで飲酒運転の撲滅などを報道や啓発をしているのになぜ飲酒運転の事故の報道が後を絶たないのだろうと不思議でならない。事故が起こるたびに飲酒運転の危険性を訴えている当事者や被害者の言葉はどうして届かないのか。 特に被害者の家族のコメントを聞くにつれ、いたたまれない。 どうしたら撲滅になるのだろうか。 最近は、「アルコールが抜けていると思っていた」という当事者がいるのが残念でならない。 対策として考えられるのは、運転前にカーナビなどで「アルコール検知をします。」とか「アルコール検知チェックを開始します」と検知してくれる機械が付いていればいいのにと思う。（実際あるのかもしれませんが） 自分事として自覚できる仕掛けがあればいいと思います。（スタンプラリーみたいな）
アルコールの販売を辞める。 飲酒運転をする人はほぼアルコール依存症。
具体的に、このお酒をこの量飲んだら基準値を超えるという基準を広めてはいいのではないでしょうか？神社でお神酒などのごく少量のお酒をいただくケースもあると思いますので、分かりやすくていいと思います。
飲酒運転で人生終わってしまう旨の動画を運転免許講習に取り入れる。
飲酒運転をすることによって、被害者のみならず、加害者側にかなりの刑罰が起こることへの認知を更に広めることが重要と思います。
飲酒運転で事故を起こした人の体験を文章化し書籍や広告にする 飲酒運転で事故を起こすと人生が変わることを周知することが大事 代行運転業者を増やす事※ライドシェア事業の普及も含む
福岡県は2006年に飲酒運転の車に追突されて3名のお子さんが亡くなったという悲惨な事故をうけて県をあげて運動をおこなったり、条例を制定したり違反に対する罰則などを強化しており、司法も行政もそれなりの対策はとってきているものの近年飲酒運転による摘発が増加しているように感じられる。 違反金は高額となり公務員などは懲戒免職といった厳しい処分等があるにも関わらず飲酒運転が減少しない現状をみると未だに「私だけは大丈夫」といった気持ちがあるケースとアルコール依存症の存在が大きな要因ではないかと考える。 飲酒運転をなくす方策としては県が条例で定めている「飲食店側の通報システム」を基に飲食店業者に協力をお願いすることはもちろん、警察による摘発の強化、それにより摘発された者のマスコミでの実名報道など現行の対策は継続しつつ、飲酒運転で摘発された者全員に対するアルコール依存症の確認および治療へつなげる事、強制的な三日間程度の飲酒運転に関する講習会参加など少しやりすぎと思われる事も行っていかなければなかなか飲酒運転の減少は難しいのではないかと思う。
飲酒運転に関しての認識の甘い方々が一定数存在する気がしています。そういった方々にも認識していただくために、比較的強く広報をしていく必要もこれからあるかと思います。
取り締まり機関を増やすこと。警察だけでなく一般からの公募で取り締まりの権限を与えて取り締まる。準公務員的な扱いで。
飲食運転が減っているかは不明だが、撲滅できていないということは、防止のための取組の効果が全くないということなので、罰則を強化するしかないと思う。 あとは、アルコール依存症の人を減らすことにも目を向けるべき。 治療や更生施設など。 そういう人には条例やモラルは全く通用しないので。
福岡県はいつまでたっても飲酒運転がなくなりません。 条例などで厳重な罰則を実施すべきです。
さらなる厳罰が必要だと思います。

飲酒運転は自動車講習以外でも行うようにしてもいいかもしれない。 例えば、自動車講習で流す飲酒運転撲滅動画をテレビやSNSで発信するなど。
お酒を飲むお店の従業員の業務後のアルコールチェック（車で出勤している方） 日常的にお酒を飲む機会があるので「これくらい大丈夫」「私はお酒が強いから」と運転される方がいらっしゃると思いますし、実際酒気帯び運転で捕まった若い子もいらっしゃいます。
飲酒運転の撲滅に取り組んでいる事はわかりますが、先日も北九州市職員が酒気帯びで捕まっていました。 まずは県や市の職員の教育をしっかりしてもらいたい。
各企業や団体や学校などに啓発ポスターを配布して掲示や教育の場を設けさせる
懲罰を厳しくする。
当事者や家族の経験について知ること。具体的に事故を起こした後、自分や周囲がどうなってしまうのか、想像できるように周知するべき。
飲酒運転かどうか後ろからではわからないので、通報するタイミングがわからないので、こういう時等何項目か候補も書いてほしいです。
自動車学校での授業を強化する。 飲酒運転をしたことによる人生の破滅を、とにかく刷り込みのように植え付ける。 飲酒運転をやめられない人の中には、かなりの割合でアルコール中毒の人がいると思う。 家族や、職場の人、近所の人が気付いている場合もあると思う。 現行犯ではなく、事前に情報を寄せる窓口があったらいいと思う。
私は飲酒運転や、ドラッグをさせない為の啓発運動に参加し、補導員や保護司、ライオンズや市の職員方々と駅前でビラとティッシュ配りをしています。 一人でも多く意識を持って頂く事が大切だと思います
飲酒運転検問を行う量の問題もあるが、それ以上に検挙される人間が関わる事業、例えば建設業や運輸業など、事業者にも一定の責任を負わせるべき。 徹底した罪と罰の相関性を強くするべきだと思う。
飲酒運転の厳罰化も必要だが、義務教育での自動車の運転のルールやマナーを守る大切さを教えることが大切と考えます
飲食店やコンビニなど酒類販売店の従業員に、特に周知するべきだと思う。
飲食店側に徹底したルールを作る 居酒屋などの駐車場利用時、ドライバーの免許証のコピーを取る、宣誓書を書かせる、店内にいる間は蛍光の目立つベストを羽織ってもらうなど
居酒屋やコンビニなどアルコールの販売や提供を行うお店で購入時または代金支払い時に「飲酒運転をしない」の指差し確認をする。
多忙な日々であると思うが、週末や年始年末などの取り締まり強化は、飲酒運転事故を未然に防ぎ、悲しい事故防止に即効力があると思う。
飲酒運転をしてしまう心理的背景を探ることも大切かなと思いました。
罰則を厳しくするよりほかに方法はないと思います。過去いろいろな啓発運動が企画されていますが、ほとんど効果がありません。たとえば飲酒運転が発覚した場合は100万円くらいの罰金を課せば効果があると思います。 就職している場合は、即退職等の厳しさが求められます。
さらなる厳罰化
家呑みをして、車でお酒を買いに行く知人がいます。本人も悪いことであることはわかっているが1km程度の運転ならと過信もあるようです。 宅配での対応がもっと充実すれば解決できるかもしれません。 飲酒運転をしている人に寄り添った制度設計も重要かもしれません。

飲酒運転を撲滅するためには、まず「絶対にしない」という社会的な意識を広めることが大切だと思います。そのために、代行サービスや深夜交通機関の充実、飲食店との連携強化など、環境整備を進めてほしいです。また、啓発活動においてはすでに取り組まれているとは思いますが、実際の事故被害の事例や、加害者・被害者双方の人生に及ぶ影響を、テレビやSNSなど多様なメディアを通じて伝えることで、より強い抑止力につながると考えます。さらに、顔認証や指紋認証などの生体認証と連動したアルコール検知システムを導入すれば、他者代用を防ぎつつ車両の始動制御や記録管理と組み合わせられ、技術面からも確実な防止策を実現できると思います。地域や家庭単位でも「飲酒運転は絶対に許されない」という文化を広めていくことが重要だと感じます。
飲食店の出入り口に飲酒運転はダメの文字を大きく書いて貼って欲しい。
SNSのショート動画はより多くの方に見てもらえると思う。いろんな角度からの作品を流すことでターゲット別のムービーがあると面白いと思う。ターゲットが元々飲酒運転をしない若者や数時間寝たらアルコール反応は消えると思い込んでいる人たち、仕事帰りに飲みたくなる人とでは見る映像は変わると感じる。
飲酒運転をしても、懲戒処分に至らないケースもあり、ゆるい 海の中道の事故以来、飲酒運転撲滅の機運は醸成されてきたが、未だになくならない状況を考えると、飲酒運転をしたら一般社会に戻れないくらいのさらなる厳罰化が必要だと感じる。 ・懲戒免職 ・免許剥奪、一生免許を取得できない ・人身事故の場合は無期懲役以上
職場向けの出張(出前)イベントの開催。 二次被害にならないように配慮した上で、被害実態の紹介、広報。
すでに行われてると思われるが、自動車学校での啓発活動が有効だと思う。
酒好きの人は、どうやっても酒を飲む。強制的に運転できなくなるように、自動車に酒を感知したら、エンジンがかからない装置を付けることを強制的に法律に明記する。または、一度でも飲酒運転をしたことのある人には、義務化する。
継続することが大切だと思います。
行政が行うことができる範囲か疑問ですが、自動車の機能向上（息を吹きかけて飲酒をしていないことが確認できた場合にエンジンオンが可能になる機能等）が必要だと考えます。現在まで多くの広報・啓発を行っていますが、未だに撲滅できていない現状は、広報・啓発では限界があるということを示していると思います。広報・啓発と同時に自動車の機能向上に行政が自動車メーカーと協力して研究・開発していくことが求められていると考えます。
「飲酒運転を見かけたときの１１０番通報の義務」というものを、国として定めているものと勘違いしており、今回初めて福岡県の条例だということを知りました。 以下はいささか乱暴な意見ではあると思うのですが、抑止力を強くすることが必要なのではないかと思います。 〇今以上の厳罰化 〇言い訳によって責任が軽くなることがないよう制度の改革（すでにあるのならばその周知） 〇事故の発生から飲酒運転者の結末までを具体的に記した実例を、定期的にSNSで広報
・刑罰の厳罰化 ・就労している場合は、理由不問で即日解雇 ・運転免許の永久剥奪
町中はもちろん、特に田舎を取り締まってほしい。田舎は車が足になっているから、そこを捕まえて、はじめて、行政が動くので、まだまだ甘い。また、都市部では、駐車場に監視カメラを設置し、飲酒と分かれば、ナンバーを控え、翌日逮捕して欲しい。
罰則の強化は、逆にひき逃げによる隠蔽を助長する可能性があるため、慎重な運用が必要です。近年、外国人による飲酒ひき逃げ事故も増えており、免許取得時に法令・罰則・応急救護義務や警察報告義務を明確に教育・周知することが重要です。 「知らなかった」「母国では許されていた」など言い逃れできない仕組みが必要で、短期滞在者でも国際免許で運転する可能性もあります。 同乗者の責任も曖昧にさせないためにすべての外国人に、入国時点で広く伝える気構えが必要だと思います。

一番は、家庭での認識、学校などでの認識、広報やテレビなどでの広報活動。
日本はコンビニや自動販売機などいつでもお酒を手に取りやすい購入しやすい環境なので、せめて夜間は購入出来ないなど一定の規制が必要だと思います。また、車にも飲酒しているとエンジンがかからないロックの搭載を早急に進めるべきと思います。そして、アルコールに対しての税率ももっと上げるべきと思います タバコのパッケージに癌や疾患について大きく掲載しているのと同じようにアルコール類のパッケージに対して飲酒運転の事故の遺族や被害者の声を大きく載せて意識改革をしていけば良いと思います。
取締まり及び違反者への罰則強化 取締りは大規模駐車場出入り口の抜き打ち調査 違反者は少なくとも1年間は運転できない
守れるよう何度も何度も発信し続けないといけないと思います。絶対に風化させないために。
刑事罰強化
教習所での徹底教育
アルコール依存症者を家族友達にもつ方は、該者へ日ごろから強く言い聞かせ監視する。 アルコール提供者（飲食店等）へ罰を与える条例等を制定する。
飲食店でのアルコールチェック
飲酒運転撲滅について家族で話し合う週間を意図的に設けたりする必要があると思う。 Youtubeの飲酒運転撲滅動画は会社で共有されたが、もっと世間に公表すべきと思う。
福岡の飲酒運転問題について、正直言って、現状はあまりにも多すぎる。ニュースを見ていると、ほぼ毎日のように飲酒運転による事故が報じられており、このままでは命が危険だ。福岡の道路は、運転が荒く、他の車両を見ているだけでも事故のリスクを感じる。自分自身も横浜では運転していたが、福岡ではそれが難しい。運転すると、事故に巻き込まれる可能性が高いと感じ、今では運転を避けている。 飲酒運転撲滅のためには、まずは社会全体の意識を変えなければならない。飲酒後に車を運転することがいかに危険か、もっと強く認識すべきだろう。教育や啓発活動を強化し、飲酒運転が許されない社会の風潮を作ることが重要だ。社会的な非難を強化することで、運転者が飲酒後の運転に対してより強い意識を持つようになるだろう。法的な罰則強化ももちろん大切だが、それだけでは不十分だ。罰則が厳しくても、それに甘んじて飲酒運転を続ける人がいる限り、問題は解決しない。 また、飲酒後に運転せずに済むような環境づくりも必要だ。終電や終バスの時間を延ばすことがその一つだろう。働いている人たちにとって、終電や終バスが早い時間に終わるのは大きな問題だ。もし、公共交通機関の利用がしやすくなれば、飲酒後の移動手段としてより多くの人が公共交通機関を利用するようになるはずだ。それだけで、飲酒運転のリスクを減らすことができる。
飲酒運転についての刑罰が軽すぎると感じている。危険運転の基準を厳しくすべきである。
罰則強化
飲酒運転は厳罰化を行い、減らす努力をもっとした方が良いと思う また外国人が増えてる中で外国人は認識が甘い部分があるので、周知した方が良い
飲酒運転は絶対にしてはいけないことを意識せざるを得ない環境を張り巡らせること。今でも海の中道の事故や高校生の息子さんを亡くされたお母さんが事故の命日にはよく新聞で取り上げられているが、命日の近辺だけ飲酒運転撲滅運動をすれば良いものではないので。
どれだけ啓発のための広告活動をしても、響くのはもともと気を付けている県民であり、未だに飲酒運転のニュースはなくならない。実名報道はされているが、刑罰そのものをもう少し厳しくしないとなかなかなくならないと思う。 ただ、広報活動も全く意味がないわけではないので、7月だけでなくもう少し頻繁に啓発活動をしてほしい。
タバコ同様、酒にもパッケージに飲酒運転の注意喚起の表示
本人の自覚次第と思います ただ、飲酒で捕まった場合の家族への影響、事故を起こした場合の被害者（家族含）への影響等を理解すれば、飲酒運転は、減ると思います 免許を取得する時、飲酒違反等の時に、飲酒運転での事故、家族の影響等の映像で自覚を促すようにしたらどうでしょうか

新聞・TVニュース等によれば、飲酒運転は減っていないと感じています。法的な厳罰化もなされているとは思いますが、更なる重たいペナルティを課すべきではないでしょうか。
アルコール依存症の方およびその家族の方へのサポートプログラムの費用を一部補助する。 通勤や業務で車の運転をする事業所ではバスやタクシーのようにアルコールチェックを義務化する。
福岡県はいつまで経っても飲酒運転をされる方がいるので車に感知機をつけてはどうでしょうか
飲酒運転をした者に実際の事故や被害者の体験談をしっかりと知らせることが大事だと思います。 自分や家族に置き換えることでその痛みや社会的影響、被害を具体的に知らせるべきかと思います。
私自身、飲酒運転をされていた車に正面衝突されて小さい頃に受けた外傷が未だに残っています。何故、飲酒運転が、減らないのか、いつも疑問に思います。 人生を棒に振ってまで飲酒運転をする人達の神経がわかりません。ましてや、忘れもしません。小さい子達が8月25日に海ノ中道の途中、飲酒運転で命を落としました。飲酒運転をする方々は容赦なく免停、免許剥奪、以降免許がとれないようにして欲しいです。私自身が飲酒運転で受けた傷が残っているので強い思いがあります。
飲酒運転をしちゃう人は「良識のない」人です。 良識のない人でも一発で伝わるようにするには法改正もしくはアプローチの仕方を変えるしかありません。法改正はすごい時間が掛かるでしょうから無理なんですが、飲酒運転をしたら「殺人未遂罪」を適用すればいいと思ってます。 アプローチの仕方を変える件ですが、殺人未遂罪を適用できませんが飲酒運転は実質殺人未遂のようなもので、ワード的にも非常に重たいパワーワードです。なので啓発広告などであえてこのワードを使うことで、かなり強いイメージを与えられると思います。 例えば「お酒飲んで運転したの？それ”殺人未遂”だよ」や「パパ、人殺しなの？」「飲酒運転は人殺し予備軍です」などです。強い言葉なので子どもが啓発活動で使うのは難しいと思いますが「良識のない人」には強い言葉で投げかけないと絶対に響きません。 一番は法改正がいいんですが、まずはパワーワードで反応を見てみるのもありかと思います。
そもそも飲酒していたら車に乗れない車にするなど仕組みづくりが必要と思う
社会全体で撲滅する！許さない！という姿勢をこれからも強く持つべき。 お酒を飲む時には、本人も同行の家族や友人も、飲酒運転は絶対ダメだということを全員で共通認識でいるためにも、お店からの指導やポスター、代行なども積極的に使えるような環境があるといいと思う
飲酒運転による事故の話を、免許更新の際に聞いてより強く飲酒運転の怖さを考えました。実体験の話も含めると話が聞きやすかったです。
どの年代の意識が低いか分からないが、意識が低い年代に対して有効な手段で意識改善を行う必要があると考える。
意識付けに関しては啓発等で十分に伝わっていると思うので、物理的に飲酒後の運転が出来なくなるアルコールインターロック装置を義務化するとかですかね？ あとは、罰則をさらに厳しく一発で必ず実刑（刑期も長く）にするなどでしょうか。
ラジオを聴きますが、クロスFMのコーナーのひとつに毎日の飲酒運転による事故数を報告するものがありました。こんなに運動をしても飲酒運転する人がいるんだと毎日驚いていました。ラジオは運転する人がよく聴くはずなので、各局連日報道したらいかがでしょうか。
車だけでなく自転車も罰則の対象になることを周知すべきだと思う。車ほど大きな事故にならないかもしれないが、だからこそ気の緩みがあると思う。
車と違い自転車はナンバーがないので通報しにくいのかなと思う。身元がある程度わかる相手なら通報して説明出来るけど通りすがりで見かけたとしてもすぐいなくなってしまうかなと感じています。マナーが悪い乗り方はよく見かけます。並んでいたり、先日は全く避けようとせずに歩道を前から来て、横をすり抜けるのがギリギリで腹立たしかったのか「オイ！」と怒鳴られとても怖かった。
飲酒運転によって起きた悲劇を伝え、飲酒運転の怖さを伝える機会があるといいのでないかと思います。

私は運転をしないので罰則について詳しく知らないのですが、どうして飲酒運転をするのか理解できません。 罰則強化しかないと思います。 酒気帯び運転で一発免許取り消しを原則というのはどうですか？
飲酒運転の撲滅には、短期的な取締りや啓発だけでなく、社会全体の意識や行動を変える長期的な取り組みが必要だと思います。まず、学校教育において中学・高校段階から飲酒運転の危険性や法的責任を学ぶ機会を定期的に設け、若いうちから「飲んだら運転しない」という価値観を根付かせることが重要です。また、企業や自治体、学校単位で「飲酒運転ゼロ宣言」を行い、その内容を社内・校内で常に見える形で掲示することで、集団としての行動規範を形成できます。さらに、代行運転やタクシー利用を促すための料金補助制度を恒常的に整備し、「飲んでも安全に帰れる手段」を当たり前にする環境づくりも必要です。被害者や加害者の手記やインタビュー動画を教材化し、定期的に視聴する機会をつくることで、感情に訴え、記憶に残る啓発が可能になります。加えて、繁華街や観光地など人目につく場所に飲酒運転撲滅のメッセージや事故事例を常設掲示し、日常生活の中で継続的に意識づけを行うことも効果的です。さらに、将来的には自動運転車の早期導入を推進し、飲酒時でも安全に移動できる社会インフラを整備することが、根本的な撲滅につながると考えます。こうした教育・文化・環境・技術の四方向からの継続的な施策により、飲酒運転をしないことが「特別な意識」ではなく「当たり前の行動」となる社会を実現できると考えます。
飲酒運転の撲滅に対する啓もう活動の限界を感じており、今は社会の本気度が問われている状況ではないかと思う。例えば、現状では重い罪という認識が薄いので、違反した場合のペナルティを重くする。罰金刑は無くし、禁固刑や長期間の運転免許取得不可など、一般生活が困難となるレベルのペナルティを科す。同乗者にも運転者と同じペナルティを科す。などの検討が必要と思う。
海の中道の悲惨な事故以来、飲酒運転は減少したことがあるが最近ではまた飲酒運転による事故や検挙などのニュースを毎日のようにみることがあります。 飲酒運転による罰則をさらに強化することはもちろんですが、飲酒運転をする人の多くはアルコール依存症またはそれに近い人が多いと思います。やはりこのような人たちの治療や意識改善の手立てをしっかりとしなければならないのではないでしょうか。
自動車免許証更新の際に啓発ビデオを見せます。
【職場等で予防文化を醸成する】 1. 職場を軸にしたルール化と緩やかなネットワーク連携を促す 　会社単位で「飲酒運転ゼロ規範」を明文化し、飲み会後運転の禁止（違反時は社内ペナルティ）＋代行費補助など制度化する試みを後押し。各企業の安全衛生活動やCSR活動の一環として横のつながり（業界団体・商工会議所など）の活用も可能性有。業界ごとに安全運転優良企業の認証制度を設け、対外的に評価される仕組みを作る。 2. 利用者参加型の安全インフラの作成 　代行運転やタクシー配車アプリと連携し、飲み会当日の「移動記録」や「帰宅ルート」選択を簡単に可視化する仕組みを作り、企業等での導入を促す。ポイント還元や飲食店割引とセットで、車を運転しない選択を経済的にも後押しする。職場やオンライン共同体で「安全行動ポイント」を共有できる仕組みを導入。
とにかくテレビやSNS等で粘り強く広報することだと思います。
飲酒運転を行った人は直ちに運転免許を返納と定めてください。 飲酒運転の撲滅に向け、警察官の警備人数を増やし、住民の意識を高めて頂きたいと思います。 飲酒運転の撲滅に向けた広報を深めて頂く事で、効果が高まると思います。
飲酒運転に限らず、携帯電話触りながらの運転にも力を注いでほしい。車に限らず、自転車も原付のイヤホン両耳にいれての運転も論外ではない
酒販業界自らが飲酒運転の撲滅に向けた呼びかけを行う活動があると、とても興味を引く新たな活動になるのではないかと思います。 このような活動は、本来酒類の売り上げ増と相反する方向性のものと思われるかと思いますが、様々な分野におけるコンプライアンス意識は今後ますます広がるものと思われます。飲酒運転撲滅を訴えることが決して酒販業界にとってマイナスにならないという認識が広がるとよいのでは、と思っています。
ひとくちでも飲んだら乗りませんが、日常的に飲酒はしています。 正直、どれぐらいの量を？どれぐらいの時間をあけなければならないのか？ 正確な量と時間を知りたいです。そしたら、さらに意識が高まると思います。

若い世代への啓発を学校行事として取り入れるくらい重要視したほうがよい。 また、会社経営者にも酒の席でのルールを徹底するよう広報する機会を増やす。
人間の意識だけに頼るには限界があるため、テクノロジーの力で物理的に飲酒運転を不可能にする仕組みの導入、あるいは自動運転レベル6の開発が不可欠である。
アルコール類のラベルに飲酒運転の危険さ等を目立つように記載する。タバコのラベルに健康被害の事が書かれてみたいに。
運転代行の充実
飲酒運転で摘発された人の氏名を必ず公表する様にしていく。飲酒運転する人は啓発運動にもかかわらずするだろうし、ある程度の社会的な制裁を科さないと減っていかないと思う。
企業や学校に、飲酒運転含め安全な運転のための講習や適性検査を実施することを義務化する必要があると思います。
学校教育で取り入れて欲しいです。既に組み込まれているのでしょうが、親子で受講するとか、子どもたちが大人たちを教育できると思っています。
県政でどうにかなる問題ではないかと思いますが、車自体に呼気チェッカーを搭載するなどの対策をしなければこの先飲酒運転がなくなることはないと感じております。
飲酒運転0を目指して今日までに〇〇日目をいうニュースをTVで流しても効果的だと思いました。ラジオではそのようなものを聴き、より気を引き締めていこうと思いました。
あまりにもお酒のコマーシャルが多すぎる。飲め飲めと訴えてくる気がします。コマーシャルを減らすべきでは。
飲酒運転により人生を棒にふることになるメッセージの強化
もっと学校で飲酒運転の怖さを教えた方がいいと思う。SNSや広告では他の情報が多過ぎるので、目に止まらない。
飲酒運転で逮捕された人がよく「もう酒はぬけていると思った」と言っています アルコール分解の正しい知識や軽い判断がまねく恐ろしさをさらに伝える努力が必要です
問1-2で、その他を選択したかったのにその他が無かったので、2新聞・テレビを選択しました。 実際のところ私が最初に通報の義務を知ったのは、アルバイト先の飲食店のマニュアルでした。そこでは飲酒運転をさせない、見かけたら通報を徹底的に教育してたので、飲酒後自転車・自動車で帰る客を見かけても止めて、止まらないようなら警察に通報してました。 福岡県は飲酒運転が本当に多いと思います。悲惨な事故がまた起こる前に、販売店への指導に力を入れてほしいです。
飲食店などで、ポスターなどの掲示を増やす。駐車場などにも掲示する。
罰則が緩すぎると感じるので更なる厳罰を科すことによって抑止力になると考える。 都市部より地方都市での飲酒運転が多いイメージがあるため、啓蒙活動は地方都市で集中的にやる方が効果が高いと思われる。
テレビにて飲酒運転の恐ろしさを伝える動画を流す。 飲酒検問の場所、回数を増加させる。 飲酒運転による罰則を強化する。
飲酒運転をする方は劇的に減っており、ハンドルキーパーや車で帰る方はお酒を勧められない空気も増えている。他方で、断れない雰囲気がまだまだある。罰則を厳しくしても飲酒運転を行う方は減らないと思う。 飲酒運転の危険性について、日常生活で学ぶ機会や情報に接する機会が多いほど撲滅に近づく。全員に浸透は厳しいが、様々な周知方法を試して情報を広げてほしい。
近年、若年層や高齢者の飲酒ニュースが散見する若年層に向けては学校教育での周知徹底、高齢者では免許更新時での啓蒙活動強化に加え、飲酒運転撲滅集中取締りキャンペーン等によるさらなる注意喚起が求められる
飲酒運転の疑似体験を免許更新の何回かに一度取り入れて、恐怖体験(大げさな言い回しになりますが)を味わってもらうといいと思います。

警察が飲酒運転で逮捕されるニュースをみると、説得力がなくなる。まずは、警察官や公務員の撲滅のための取り組みを強化してほしい。その強化方法を広報すればいいと思う。また、免許を取った人のみアルコールを購入できるようにするなど、購入段階で制限すればいいと思う。20才以上でなく、免許を持ってる人のみアルコールを飲めるようにするのもいいと思います。
若年層はSNSからの情報収集が多いと思うので、SNSからの発信を多くするといいとおもいます。
お酒が残っているかわからない人のため、車へのアルコールチェッカーの搭載義務化。 また、過去の悲惨な事故事例など啓発メッセージなど、自動車税納付書に印刷して目に届くようにする。
複数人の身勝手な行動により、他者に不利益を与える事については、警察や啓発活動のように税金投入した形で自身を含めた多くの人々の社会的活動に制限をかける形となる事について、理解増進できる何らかの媒体を通して伝える事が出来たらいいと思います。
飲酒運転の刑罰を今よりも重くする
社会福祉協議会と協力して、高齢者に向けた、飲酒運転撲滅の講演や授業をした方が良いと思う。 高齢ドライバーが増加する昨今、運転技術だけでなく、飲酒運転がどれだけ危険なのか認識した方が良い。
利用するSNS上で広告のような形で目に付けば、さらに意識を持つ人が増えるのではないかと思う。特に若い年代。
飲酒運転はこれぐらいは大丈夫という旧来の考え方から抜け出せていない人への啓もう活動を強化する必要がある
30年ぐらい前のグレーだった頃の感覚が高齢者には少しある気がする。 近所なら、田舎道ならという感じ。 田舎の飲食店等へのキャンペーンや高齢者講習で力を入れていったほうが良いと思う。
警察官による取り締まり回数を増やすこと、場所も増やすこと、いつもやっていると見せることで、絶対に減ると思う
繰り返し継続的な啓発に尽きると思います。事故のニュースを見るなどして飲酒運転はいけないと心に刻んでも、その後無事に過ごしていると忘れてしまうのが人間ですから、何度も思いを新たにできるよう、免許更新講習や職場の安全講習など様々な場所で事あるごとに耳に入るようになっていてほしいです。
家族、友人そして飲食業者など飲酒の機会に立ち会う者が飲酒運転は厳禁という事を自覚、徹底する。
車メーカーの対策をもっとお願いしたいです。 お酒を飲んだらエンジンがかからないような仕組みの車を開発してほしいです。 アルコール依存の人への対策も考えたほうがいいかもしれません。電話相談やネットでの相談など気軽にできるようになると良いと思います。
飲食店等に夜でも警察官が立ち寄るような行動があってもよいと思うんですが。 警察官がいるのといないので、どんな場所でも違うように思える。 酒類を二重構造のようにして、すぐには飲めないようにはできないでしょうか
お酒を売り場やお酒を飲む場に、飲酒運転禁止や飲酒運転を見かけた場合は通報の義務がある旨のPOPを必須で設けるなどして、撲滅に力を入れるなどすると良いと思います。
福岡県は、飲酒運転事故については、過去に大きな問題を起こしており、絶対悪であるがいまだに公務員の不祥事が多発している。 残念なことに公務員(取り締まりの警察も問題発生)も多種多様であり、いかに意識改革を行い、撲滅せねばならないが不祥事が続発している。 年度ごとに組織名、地位、住所、氏名すべてを公表する等、厳罰に処す必要がある。 8月になると毎年、思い出す！
飲酒運転は、平日の場合、特に業務上車を利用せざるを得ない会社員や事業者に多いと感じる。そのような企業、事業者に対しての啓蒙活動や検査の導入などを打ち出すのはどうか。

小・中学校などでも飲食運転を起こしたらどうなるか授業の1コマで啓蒙したら良いのかなと思いました（子供から親に授業で習った事を言われると気持ちとして響くから）
これまで様々な対策を講じても無くならないのなら、広報・啓発活動では難しいと思う。罰則面の強化（免許取消だけでなく再取得出来ない、高額罰金等）や車メーカーとの協力による、飲酒すると車そのものが運転できなくなる仕組み作りが必要だと思う。
運転者の更なる意識向上。
少しの飲酒なら大丈夫とおもわないで、しらふの時とは違う事を強く思うようにする。
アルコール依存症の専門病院への入院をすることが大切だと思う 無知は罪です。
飲酒運転を一度もしようと思ったことが無いためあまり気持ちが分かりませんが、する人としない人は極端に分かれていると感じます。 飲酒運転被害者のメッセージはこれから免許を取る若い人には効果があると思いますが、飲酒運転をする人には加害者のリアルな声のほうが受け取られる気がします。 （何故飲酒運転をしたのか、その後失ったもの変わった生活等）
重大事故の事例を風化させないように今後も定期的に事故等についてメディアで流して欲しいです。
啓発活動を頻繁に行っていく 様々な世代に訴えていく
飲食店などで飲酒している方へ、帰りの交通手段などを聞いてみるといいのでは
飲酒運転で捕まり、罰金と運転免許の取り消しを受けながら、勤務先〈一部上場企業〉には一切報告せずに、こっそり免許を取り直した輩を知っている。 職種が運転に関係なく、勤務先に知られずにすんだのか、内緒で運転していたのかは不明。 その輩が、次に交通死亡事故を起こしている。当然加害者、被告。 こういう輩を野放しにしておく勤務先も舐められたもの。コンプライアンス遵守が聞いてあきれる。 勤務先の職種に関係なくても、運転に関しての管理は必要だと思う。個人情報を盾にするような輩は解雇も有りしだと思う。
人の心理的な要素も必要だと考え、ランダムな検問も必要ではないかと考える。そうすれば人々の飲酒運転への意識も高まるのではないかと思う。
若年層からの交通安全教育を強化。テレビCMやSNSなどを活用して、飲酒運転のリスクと社会的責任を広く周知する。
海の中道の事故から19年目ですね。辛い事故でした。みんな飲酒運転はいけないことと分かりつつ、ついそこだからとか、時間的に大丈夫だとか、気持ちの問題だと思います。もっとSNS等を利用して、また、公共の機関を利用して、また、免許更新時等を利用して広めていくべきかと
お店側にも、帰宅方法の手段の確認を義務付ける等しなければ全くの撲滅は難しいと思います。
運転する自動車にアルコールチェッカーのような機能を付けるのが最も効果的だと思います。 もしくは、飲食店側も厳しくチェックするように条例を作るなど。
コンビニに車でアルコールを買いに来る人に啓発する。 前にありましたが、ステッカーを作る。公募で県民にデザインやコンテストをする。 各市でデザインを作り、車やバイクに貼ってもいいようにカッコいいようにする。
代行タクシーが足りなすぎる。宴会などで飲まざるを得ないことも多く、そうした場合に利用できる代行手段が少ない（タクシーが来ない）ことの改善が必要
学校や職場での意識づけを何回も繰り返す
小中高校の段階から飲酒運転の危険性について学ぶ機会を設け、若いうちから「しない・させない」意識を育てるべきです。その意識をあたりまえにして欲しいです。 アルコール検知器の義務化 業務用車両だけでなく、個人の車にもアルコール検知器の搭載を進め、車の始動前にチェックを義務化する制度が必要だと思います。 飲酒運転の疑いがある人物を見かけた場合に、匿名かつ迅速に通報できるアプリやシステムの導入を検討すべきです。 「ハンドルキーパー」の方は特典ありとか！
かなり強い処罰をつけた方がいいのでは？と思っています。そうでなければ、昔の感覚で「バレなきゃいける」「バレてもお金払えば大丈夫」と思っている人が大多数だと思います。

運転代行が気軽に利用できるように、利用した個人に補助をする。
過去の悲惨な飲酒運転事故の話をみんなで繰り返し伝え、忘れないようにすること。 若い人から大人まで、飲酒運転が人の命を奪う危険な行為だとずっと教え続けること。 飲酒依存症の人や繰り返す人には、専門の指導や治療を強化し、定期的に検査を受ける仕組みを作ること。
飲酒運転の撲滅に関して、ポスターによるキャラクター的な広告でなく、より飲酒運転によって引き起こされるネガティブな結果を具体的に表すことで、皆の印象に刻まれると思う。
飲食店経営者に、来店者に対する自動車運転による来店の確認の義務化 自動車による来店者に対する飲酒前の代行運転またはタクシー予約確認の義務化
テレビ、ラジオでの広報活動および職場での指導が効果的だと思う。
年末年始、お盆などの長期休暇に検問などの取り締まり強化、イベントの開催
警察による定期的な検問
現在もしていることかとは存じますが、居酒屋など飲酒を提供している店でのポスター掲示は効果的かと思います。
1人1人が飲んだら乗らないと意識をもつこと。子供の頃から、学んでいく環境が大事。
罰金を高くする
飲酒運転撲滅に関してテレビ等でもよく見受けます。撲滅強化期間だけでなく常日頃からPR強化して頂けたらと思っています
カナダ人の友人が来日した時に言ってたことだが、日本はいつでもどこでも（例えばコンビニ）お酒を買うことができると驚いていた。徹底して対策をするなら、夜間のアルコール販売の禁止くらいしないといけないし、車にドライバーアルコール検知器をつけるくらいしないといけないと思う。
運転手の飲酒を検知した場合、エンジンが停止する仕組みを構築する。
現在の取り組みの継続で可。
飲酒運転者への罰則強化。飲酒運転者は運転許可の取り消しや悪質な場合は再発行はしない。
罰金刑罰を重くする、飲酒したら動かない自動車を開発する、同時に啓発活動を強化することでしょうか。
検問回数の増加
今の施策はどれも法的にも社会的にも甘いと思っています。 飲酒運転がどれほどの不幸を生むのかについて、飲酒運転をする加害者になりえる側の人には訴求効果がないから、いつまでたってもなくならないと思っています。
飲んだら乗るな、この合言葉は永遠に不滅だと思います
ぼくは大丈夫、近くだから大丈夫という考えを捨てさせるイベントが必要
すでに取り組まれているかもしれませんが、飲酒運転に加担した飲食店の実名を公表する、また同乗者に対する罰則をさらに強化するべきだと思います。
車の運転席に座るとアルコール探知されるとよい 自動で
個人の意識の問題だと思います。 あとは、どれだけ他人事と思わないでいるか。もし、被害者、加害者が自分の身内や、近しい人だったら、と想像する事ではないでしょうか。
取り締まりを強化する
具体的に体重何キロの人が何合お酒を飲んだらアルコール分解に最低でも何時間以上かかるとか、年齢や肝機能によってもその時間は変わるという事を計算式と共にもっとみんなに周知してはどうかと考える。 また、各職場での就業規則に飲酒運転についての処罰が規定されているのも一定の効果をもたらしていると考える。
飲酒運転が禁じられた行為だというのは、いまや誰しも理解していることなのかなと思います。飲酒運転撲滅の啓発とともに、代行運転サービスや公共交通の充実など、深夜帯や郊外でも使いやすい代行サービス・深夜バスの導入などの整備も有効なのではと思います。

飲酒運転をする側の気持ちに立って考えたときに「少しくらいなら大丈夫」「見つからないだろう」などの心理が働くと思います。 その気持ちにどうしたらブレーキがかかるかと考えたときに、単純に飲酒運転はダメと言い続けることはもちろん必要だと思います。 より、リアルに考えたときに、実際に飲酒運転をして、人を死なせてしまった方のケーススタディを通じてその方のその後の人生が大きく変わったことなどを伝える動画や文書が必要と思います。
1、アルコール検知器の義務化の徹底と対象拡大 　企業や業務用車両だけでなく、一般家庭や個人にもアルコール検知器の使用を促す施策が必要です。たとえば、自家用車に設置義務を課す、または補助金制度を設けて導入を促進するなどが考えられます。 2、「代行運転」サービスの普及支援 　飲酒の機会が多い地域やイベント会場の近くで、代行運転サービスを利用しやすくすることで、運転代行のハードルを下げ、飲酒後に車を運転しない選択肢を増やすことができます。料金補助や制度的支援も検討すべきです。
現行の道路交通法下では、アルコール検知による判定だと「酒気帯び運転」と「飲酒運転」に2分されていますが、被検挙者は自身の判断で飲酒後、運転している訳だから、違反を一本化し、罰則強化を切に望みます。そうしなければ、飲酒運転撲滅は実現不可能だと考えるからです。
飲酒再現ゴーグルをつけて体感するイベントの開催
違反者にはアルコール依存症の人が多いのではと思います。アルコール依存症が引き起こす事故以外の諸々のトラブルまで広く深く伝えていく事もいいかもしれないです。
自動車やバイクなどの検閲だけでなく、自転車などにも検閲をすることで飲酒運転を撲滅することが出来るのではないでしょうか？
さらなる厳罰化。飲食店、販売店での啓発活動。
提供店や販売店での啓発
飲酒運転撲滅については、県民の意識向上が必要であると思うので、引き続き啓発活動を行ってほしい。
飲酒運転の有無を免許証の記録に残るようにする。
どんどん実名を告知していくのが良いと思う また告発した人の人権と個人情報を守り流出させない
福岡県では、過去に福岡市職員が飲酒運転をして子どもの命が亡くなった事件がありました。そのご家庭の方が、色んなところで、飲酒運転撲滅の講演をされています。それは、よいことだと思います。 が、その一方で若干20歳だった職員の再起をするのを阻んでいるのではないだろうかとも思います。
罰が甘い。 だから減らない。
鉄道やバスのダイヤの増数により、自家用車でないと行けない場所を減らす。
アルコール臭に反応するセンサーを開発する。そのセンサーをハンドル付近に装備することでエンジンがかからないようにする。車検時にこの装置がないと合格しないようにする。装置の装着に不正がないように、取り外せない無効化できないようにする。
会社や雇用主が積極的に飲酒運転撲滅のために常日頃から従業員に対して、注意喚起することが大切。また、個人情報に抵触するかもしれませんが、飲酒する人の把握は雇用主として把握しておく必要があると思います。さらに日頃どの程度の飲酒をしているのかまで知ることによって、酒好きな人に対して「飲みすぎてないか？」「飲んだら車に乗るなよ」などの普段からの「声かけ」も有効だと思います。
福岡でも飲酒運転はなくならないので色々な取り組みをして、今まで起きた事故を風化させてらいけないし、今後絶対悲しい事故を増やしてはいけないと思いました
未成年の飲酒事故もニュースで見かけるので、中学、高校での啓発をしてもいいのではと思います。もしかしたら、実施しているかもしれませんが。
飲酒運転をする人の多くがアルコール依存症だと思うので、アルコール依存症の人が治療につながれるようなアプローチがあると良いと思う。家族や周囲の人がアルコール依存症かもと思ったら、気軽に相談できるような所が身近にあると良いと思う。

もっと罰則を重くするべき 例えば飲酒運転で事故を起こしたら殺人未遂罪 飲酒運転で捕まったら一生免許は取れない等
飲食店はお客さんに注意せずに見逃していることが多いと思うので，飲食店側にも呼びかけていくことが大事だと思う。
法の厳罰化（二度と免許取得できないようにする。） 風土の見直し。 福岡県は山笠をはじめ祭りの多いところ。祭りの前後には飲み会と称するものが催しされており酒盛りの歴史は長い。これをどう変えていくかだと思う。
お酒を飲んでも睡眠をとれば大丈夫だと思っている人が多いように思います。運転する前にはアルコールチェックを行うことを推奨する取り組みなどを行うとよいと思います。
車そのものにセンサーを装着してエンジンがかかるようなシステムを
飲酒運転撲滅を一時期TVで毎日のように訴えていましたが、現在は、全く効果が無いように思います。県独自の条例などで、罰則を重たくするような取り組みは行えないでしょうか？ アルコールは、中毒性、常習性が高いものだと思いますが、飲酒運転事故は他者の人生を巻き込んでしまう大きなことですので、罰則規定をさらに拡大するようにしてほしい。
職場での交通安全講習で、ゴーグルを着用し飲酒時の視界による運転の難しさを体感したがとても為になった。 飲酒の機会がでてくる大学生や専門学生や高校生たちにもっと体験してもらうといいと思う。
飲酒運転が「なあなあ」で許されていた経験を持っている方々（福岡県には多いと感じています）にその危険性をしっかりと実感してもらえるよう、今後も継続して、もっと頻繁に飲酒運転撲滅の啓蒙活動を行っていく必要があると思います。
飲食店での積極的な活動
飲食店での酒類提供に対する罰則の強化
どのぐらいが酒気帯び運転で、どのぐらいから飲酒運転になるかまたその際の刑罰など具体的な数値や内容を知る機会を増やしたら運転する際に思い出すことができ、安全意識につながりやすいかなと考えます。
罰則強化 飲食店への罰則強化
車の設備に呼気検査機を必須にする。
罰則をもっと厳しくする。 事故など起こしても、一旦逃げてお酒を抜いて戻ればよいというような逃げ得に対してもっと厳しく罰してほしい
飲酒運転に対する罰則強化が、必須。飲酒運転の前科持ちには、その3親等以内の親族に対する県税の割増。これは、金銭的制裁と被害者救済の為の財源確保等意義大きモノと考える。それと、過去に福岡県警察の警視で交通管理官が飲酒運転で捕まったのに、依願退職に成っているが、酒と運転というワードが共存した場合事情や情状など差し挟む余地無く、懲戒免職一択が正しいと考える。また、その正しい処分を唯一の人事権者が決定したのを福岡県人事委員会が停職にグレードダウンさせた事があるがそもそも人事委員会とはパワハラや不当な人事評価等に対して意見を述べるだけの存在でければならず、人事委員会のメンバーを飲酒運転厳罰主義者に刷新すべきである。先ずは、この2件の再検証から始めるべきと強く強く考えるものである。
お酒を飲むお店での注意喚起
飲酒運転を撲滅する事は不可能だと考えています。それは実際飲酒運転をしたときに検問などに引っかからなければ成功体験となり、今回も大丈夫だろうと言う流れになるからです。そのため、飲酒運転ができないような車を開発し、車検の項目に入れ義務化するか、お酒を飲んだ後にコストがかからないように、自宅まで帰れるような仕組みが必要ではないかなと思います。
罰則の強化、厳格化
飲酒運転の背景にアルコール依存症が疑われるケースが多くあると聞いたことがあります。 飲酒運転で捕まった人に対する介入もですが、学校や大学での飲酒についての教育をするなど飲酒についての知識が広まると良いと思います。

子供達にも飲酒運転はいけないことだと知ってほしい。子供が言うことで、大人の抑止力になったらいいなと思う。
以前まで勤めていた勤務先とグループ会社では、飲酒運転防止に関する取組に積極的でかなり効果があった。 例えば毎年警察を呼んで交通事故防止や飲酒運転防止に関する講話が行われていた。 また、会社の部署で飲み会がある時は、誰が飲酒して誰がハンドルキーパーになるという文書を事前に総務部に提出することが義務付けられていた。
飲酒運転はまだまだなくなっていない。 なくならない理由としては、代行サービスやタクシー代が賄えないことが大きな理由と考えられる。 飲食店との共同で、飲酒後の代行サービスやタクシー利用の場合は、割引キャンペーンなどがあってもよいと考えられる。
はっきり言って、福岡県としてこれほど「飲酒運転の撲滅」に力を入れ、様々なイベントや報道を行っているにもかかわらず、飲酒の違反者および飲酒事故が発生し続けるのか、根本的な理由がわからない。国の施策として「処罰の重罪化と、その周知」くらいしかないのではないかとも感じる。飲酒の本人、関わる者（販売店、飲食店、家族等）に重大なデメリット（現行以上の）が生じるというような法の改正が必要なのではないかと思う。
飲食店などでアルコールを注文した場合、必ず、飲酒運転をしないように、強く言う！
罰則を重くする
厳罰化しか有効な方法はないように感じる。 「アルコールが抜けていると思った」「ほんの少しなら問題ないと思った」本当にそうなのか知る方法はない。つまりドライバーの意識を高めるしかないが、そのためには「飲酒運転で捕まったら人生終わる」くらいの意識を持たせるべきである。 飲酒運転で死亡事故を起こしたら「終身刑」、物損事故なら「生涯運転免許証は取得させない」くらいの罰則で、抑止を図るしかないと考える。
自分だけは大丈夫だと思いがちだが、事故を起こしたら相手家族や自分の家族に、取り返しのつかない将来を負わせると、自覚して運転して欲しいです。
アルコールチェッカーの無料配布と義務化 私は主婦なので、家族の朝食には、明太子や漬物系は出さないようにしています。特に明太子はお酒を使ってあるためかアルコールを強く感じるものもあるためです。食品類にはアルコール何%運転可と表示があれば迷わず助かります。
飲酒運転をなくすためには、みんなの意識を変えていくことが大切だと思います。 まず、「飲んだら乗らない」という当たり前のルールを、もっと自然に守れるような雰囲気づくりが必要です。 飲み会や会合の際は運転代行や公共交通の利用を習慣化し、友人や家族同士で声をかけ合ったり、また、飲酒運転がどれだけ危険で、誰かの大切な命を奪ってしまう可能性があるかを伝える啓発活動も重要です。 「飲んだら絶対に運転しない」が当たり前の社会でまたそのような教育も大切だとおもいます。
・アルコール提供後の客の帰宅手段を確認・記録する仕組み ・深夜・地方でのタクシー、ライドシェアの充実 ・ドライブレコーダーやAIカメラで蛇行運転を検知して通報するシステム ・学校教育で飲酒運転の被害者や加害者の事例を伝える
飲食店の負担は増えるが、飲食店にてアルコール提供時に車を乗るかの確認をするべきだと思う。 また通常、車に乗る前にアルコールチェッカーで検査するのを義務付けたり、将来的にはアルコールチェックが出来ないと車のエンジンがかからないようなシステムの搭載を車に義務付けられたらいいと思った。 飲んだら物理的に車に乗れないようになればいいなと思った。
教育

「罰する」だけではなく、「そもそも飲酒運転できない・しない状況を作る」と同時に、「生活再建と飲酒習慣改善」を並行して進めるのが効果的だと考えます。特に無職や社会的地位のない人による飲酒運転については、罰則だけでは抑止力が弱く、生活状況や心理的背景に踏み込んだ対策が必要です。 無職や社会的孤立が背景にある場合、飲酒自体が生活習慣化していることが多いため、福祉部門と警察・自治体が連携し、生活相談や就労支援を並行して提供する。 地域の居場所（公民館やコミュニティカフェなど）で「ノンアル」イベントや無料送迎付きの交流会を増やし、昼間からの飲酒を減らすなどを行う。
飲酒運転に対する意識は挨拶と同じくらい声かけだと思います。 家族でも店でも当たり前に声かけできたらと思います。 またお酒に飲酒運転撲滅って書いてあったら飲みながら目に入ると思います。 私も主人もお酒を飲まないからあまり飲酒運転に意識がありませんでしたがテレビで８月２５日は飲酒運転撲滅の日とあると気持ちが引き締まるのでメディアで取り上げる事は大事だと思います。
海の中道での事故以来、私の周囲では飲酒運転をする人はいなくなった。 今だに飲酒運転で事故を起こしたり、捕まる人が後をたたない。職場、学校での飲酒運転に関する指導はかなり行われてると思う。今だに飲酒運転をする人は職場、学校等に属しておらずその意識が持てない人か。そのような人を減らす為に、飲食店、コンビニ、酒類販売店での飲酒運転撲滅の取り組みの強化が必要では。
目に入るものだけでなく、テレビCMや選挙カーのように、耳から入る呼びかけを行っても良いのではないかと思います。
免許更新時など、飲酒運転について学ぶ機会がもっと増えればよいと思う。
酒は人の生活に潤いを与える物。それが自動車、バイク、自転車の運転と結びついた時には、凶器となる。 酒と自動車、バイク、自転車の運転と完全に切り離すことための取り組みを今以上に行うことが不可欠であると考える。
啓蒙活動は、自ら参加しようとする意思を持った人にしか啓蒙できない。そうでない人が、飲酒運転で捕まっているのではないかと思う。居酒屋など飲酒機会の提供する施設での徹底的な飲酒撲滅活動を行うことが、飲酒運転撲滅のための強力な手段であると思う。客商売であるため、難しいところではあると思うが、店員の言う事が1番耳を傾ける可能性があると思う。どのようにしたら、居酒屋の店員が飲酒運転を食い止めることができるかを行政には具体的に考えてほしい。